

飼料原料の動向について

飼料部飼料単味課長 氏家 太

■米国産トウモロコシの状況

米国産トウモロコシは今年も豊作の予感がする。作付面積は前年度より減少しているものの、遅れていた作付けが5月下旬から一気に進捗し、6月10日現在のクローププロGRESSも「優（Excellent）」と「良（Good）」の比率が77%（前年67%）といずれも良好に推移している。また、米国産地には適度な降雨もあり天候も今のところ順調である。

一時4ドル／ブッシュェル（bu）を超えたシカゴ相場は、こここのところの作付進捗の進展や天候の改善を受

け軟調に推移し、現在は3.6ドル／bu付近まで値を下げている。

しかし、現在は天候相場真っ只中であり、特に重要な7月の受粉期に干ばつに見舞われるようなことがあれば、相場上昇のリスクとなる。

近年は、米国のみならず南米の作柄も相場へ影響する。今のところブラジル・アルゼンチンともに干ばつにより生産量は減少する見通しで、トウモロコシのシカゴ相場が大きく下がらない要因でもある。

6月12日に米国農務省による需給報告が発表されたので、考察してみたい。

■資料1 米国トウモロコシ2018年6月受給報告（6／12米国農務省）

米国CORN	13／14年	14／15年	15／16年	16／17年	17／18年			18／19年		
					5／10	6／12	前月比	5／10	6／12	前月比
作付面積（百万エーカー）	95.40	90.60	88.00	94.00	90.20	90.20	0.00	88.00	88.00	0.00
収穫面積（百万エーカー）	87.50	83.10	80.80	86.70	82.70	82.70	0.00	80.70	80.70	0.00
単収（Bu／エーカー）	158.10	171.00	168.40	174.60	176.60	176.60	0.00	174.00	174.00	0.00
期首在庫（百万Bu）	821	1,232	1,731	1,737	2,293	2,293	0	2,182	2,102	-80
生産量	13,829	14,216	13,602	15,148	14,604	14,604	0	14,040	14,040	0
輸入	36	32	67	57	50	45	-5	50	50	0
供給合計	14,685	15,481	15,399	16,942	16,947	16,942	-5	16,272	16,192	-80
飼料用その他	5,034	5,324	5,123	5,472	5,500	5,500	0	5,375	5,350	-25
食品／種子／工業	6,503	6,560	6,643	6,883	7,040	7,040	0	7,115	7,165	50
（内エタノール）	5,134	5,200	5,224	5,432	5,575	5,575	0	5,625	5,675	50
国内需要	11,537	11,883	11,766	12,356	12,540	12,540	0	12,490	12,515	25
輸出	1,917	1,864	1,898	2,293	2,225	2,300	75	2,100	2,100	0
需要合計	13,454	13,748	13,665	14,649	14,765	14,840	75	14,590	14,615	25
期末在庫	1,232	1,733	1,734	2,293	2,182	2,102	-80	1,682	1,577	-105
在庫率（%）	9.16	12.61	12.69	15.65	14.78	14.16	-0.61	11.53	10.79	-0.74

2017／18年度産（旧穀）の輸出需要の上方修正は織り込み済みではあったが、75百万buもの増加は市場予想を大きく上回るもので、期末は大きく減少した。2018／19年度産（新穀）については、作付・収穫面積及び単収に修正はなかったものの、旧穀の繰越し在庫の減少とエタノール需要等の上方修正で、期末在庫は10.79%へ減少した。

この予想以上に強気な報告を受けてシカゴ相場は上昇したが、先々の米国産地の天候は良好に推移するものと予想されていること、作付け期のコンディションが良かったことによる作付面積の増加期待もあり、よほどの天候悪化がない限り、今後は弱含みの相場展開が予測される。

■資料2 米国大豆2018年6月受給報告(6/12米国農務省)

米国大豆	13/14年	14/15年	15/16年	16/17年	16/17年			17/18年		
					5/10	6/12	前月比	5/10	6/12	前月比
作付面積(百万エーカー)	76.80	83.30	82.70	83.40	90.10	90.10	0.00	89.00	89.00	0.00
収穫面積(百万エーカー)	76.30	82.60	81.70	82.70	89.50	89.50	0.00	88.20	88.20	0.00
単収(Bu/エーカー)	44.00	47.50	48.00	52.00	49.10	49.10	0.00	48.50	48.50	0.00
期首在庫(百万Bu)	141	92	191	197	302	302	0	530	505	-25
生産量	3,358	3,927	3,926	4,296	4,392	4,392	0	4,280	4,280	0
輸入	72	33	24	22	25	25	0	25	25	0
供給合計	3,571	4,051	4,141	4,515	4,718	4,718	0	4,835	4,810	-25
搾油用	1,734	1,873	1,886	1,901	1,990	2,015	25	1,995	2,000	5
輸出	1,647	1,843	1,936	2,174	2,065	2,065	0	2,290	2,290	0
種子・飼料用	97	96	97	105	103	103	0	103	103	0
その他	0	49	25	34	30	30	0	32	32	0
需要合計	3,478	3,861	3,945	4,213	4,188	4,213	25	4,420	4,425	5
期末在庫	94	190	197	302	530	505	-25	415	385	-30
在庫率(%)	2.70	4.92	4.99	7.17	12.66	11.99	-0.67	9.39	8.70	-0.69

大豆については、旧穀・新穀ともに搾油需要が上方修正されたことから新穀の期末在庫は減少した。しかしながら、米国産地の天候が良好に推移していること、注目されたブラジルの生産量が上方修正されたことなどから相場は軟調に推移している。

■7～9月期の配合飼料価格動向予想

今後の米国産地の天候にもよるが、足もとのシカゴ相場についてはトウモロコシ・大豆ともに軟調な展開を予想する。

しかし、この相場が反映されるのは9月以降と見られ、最近の原油高によるフレートの上昇や為替相場の円安により、7月以降のトウモロコシ・大豆粕等の主原料価格は上昇することが見込まれる。

為替相場については、6月12日の米朝首脳会談が特段サプライズなく終了したことから大きな変化はなく

方向感の定まらない展開であるが、基本的には日米金利差を背景とした円安傾向で、飼料原料価格を押し上げる要因となっている。

また、米中貿易摩擦の行方も今後の相場展開を左右するものと思われる。

いずれにしても、現在は米国トランプ大統領の言動に、相場も為替も振り回されているといっても過言ではないのかもしれない。

以上から、7～9月期の配合飼料価格は値上がりするものと予想されている。

■トウモロコシの作付面積のはなし

固い話が続きましたので、最後に頭を柔らかくして終わりたいと思います。

2016/17年度の米国産トウモロコシの作付面積は94.0百万エーカーでしたが、今年18/19年度は88.0百万エーカーと予想されています。2年前から6百万エーカーほど減少することになるようです。減少したとはいえ88百万エーカーとはどのくらいの広さなのでしょう？読者の皆様も恐らくは「ものすごく広大な面積なのだろう」とご想像されるだけだと思います。そこで、米国産トウモロコシの作付面積を少々分かりやすく換算してみました。

日本の国土は約378,000平方キロメートルです。これをエーカーに直すと約93.4百万エーカー。何と、2年前の米国産トウモロコシの作付面積94.0百万エーカーに匹敵することがお分かりになると思います。だいたい【米国産トウモロコシの作付面積】≒(日本の国土)とすることができます。

では、減少した6百万エーカーはどのくらいかというと、これは約24,000平方キロメートルと換算され、ほぼ神奈川県面積に相当します。2年前には北海道から沖縄まで日本全体に植えられていたトウモロコシが、今年は神奈川県だけ植え忘れた・・・と考えるとイメージしやすいかもしれません。ただし、これが大きな減少かどうかは読者の皆様のご想像にお任せします。

注：本稿は、2018年6月15日時点の相場状況に基づいています。